

# CULIB NEWS

## 「図書館と私」

中京大学図書館長 檜山 幸夫

私にとって、国立国会図書館は研究活動の原点であった。大学に入学した1968年にはじめて同館を訪れ、以来、大学院生の時はおおよそ週5日のペースで通い、まさに書斎の延長であった。同館所蔵の資料を基に、学部時代にはレポートと卒論を、大学院では修論と研究ノートや学術論文を作成したが、それだけではなく後輩の卒論や修論の指導も行った。論文指導では、実際の資料を使って検索の仕方から資料の特徴を理解させることが必要で、そのためには研究図書館である大学図書館では研究指導機能が求められる。学生に課題を与え調べ纏めさせレポートを作成させるためにも、図書館は重要な役割を担っている。

私が学部時代に書いたレポートでもっとも印象に残っているのは、西洋史概論のレポートであった。それは、スペイン史が課題であったことからレコンキスタについて纏めたものであるが、当時はスペイン封建制の研究書は少なく、国立国会図書館でも論文を含めて三十数点しかなく、この中から使えそうな十数点を選んでほぼ二ヶ月間通いつづけてノートを作り、それを基に一ヶ月程度掛けてレポート用紙40枚程度に纏め、遅れて提出した。指導教授は、高く評価してくれただけではなく貴重な労作でいずれ使えるときもあるからといって返してくれたが、その後結構役だった。この経験から、学部時代のレポート程度であっても、しっかりしたものを纏め書くことが重要であることを知った。つまり、学生に課題を出してレポートを書かせるためには、教員が図書館を如何に使わせていくかという指導法とともに、図書館の研究機能を如何に充実していくのが課題となろう。

さて、ここで同館所蔵の「資料」と書いたのは、同館が所蔵しているのが一般の図書文献だけではないからである。私が、博士課程の時にはじめて学会誌に論文を発表（日本古文書学会で発表し『古文書研究』に掲載）できたのは、同館が所蔵する史資料を使ったことにある。同館では、議会制度五十周年記念事業で帝

国議院に設置された憲政史編纂会が収集し筆写編纂した私家文書や戦後収集した各種文書を収蔵している憲政資料室、新聞と雑誌を収蔵する新聞雑誌室、議会議事録や官報そして貴衆議院議員要覧などを収蔵する法令議会資料室、国連関係資料室から各種事典・辞典類や全国の電話帳を収蔵している参考資料室を利用したからである。同館は、これらの各種の専門的な資料を集中的に収蔵し提供しているところに特徴があり、まさに研究図書館といってよい。

図書館には、それぞれ館としての精神がある。国立国会図書館では、本館正面の中央出納台の上の壁に日本語とギリシャ語で刻まれた「真理がわれらを自由にする」の句がそれにあたる。この句が、私の研究者としての信念の原点ともなっているもので、これは歴史学者の羽仁五郎が創案し、憲法学者の初代館長金森徳次郎の揮毫によるもので、その意は国立国会図書館法前文の「真理がわれらを自由にするという確信に立って、憲法の誓約する日本の民主化と世界平和とに寄与することを使命として、ここに設立される」に示されている。まさに、図書館は単なる図書文献の収蔵庫ではなく、真理を探究するための資料情報を収集し提供することを使命とする知的情報機関であるといえよう。



▲図書館の蔵書を書店の店頭で選ぶ学生選書ツアー  
14人の学生が参加した（6月17日）

## CULIB HISTORY

## 「クラブヒストリー」

— 図書館の過去・現在・未来 —

## 第5章

## 豊田図書館新館誕生秘話（1980～1988年）

豊田校舎（現・豊田キャンパス）に図書館の分館が開設されたのは、昭和46（1971）年。体育学部が名古屋校舎（現・名古屋キャンパス）から豊田校舎に移転したのに伴い、体育学部の図書館としてスタートを切った。正式名称は、「中京大学附属図書館豊田分館」。教室等の一部を活用し、主に体育関係の図書が所蔵された。3年後の昭和49（1974）年、豊田校舎本館（本部棟）が完成すると、その西側1・2階に豊田分館も移転。そして、15年後の昭和63（1988）年、現在の豊田図書館がオープンすることになった。その新館誕生に向けての秘話を紹介しよう。

## 第1節 豊田分館回想

昭和55（1980）年頃の豊田分館の姿を再現してみると――。場所は豊田校舎本館の西側。1階部分に事務室と閉架書庫、2階部分には、開架閲覧室（44席）と一般閲覧室（112席）、それに閉架書庫があった。体育学関係と教育学関係を中心に約70,000冊の資料（教育学と体育学で約3割）を収蔵していた。

開架閲覧室には、固定式の書架が設置されておらず、代わりに簡易シェルビー（組み立て式の書架）を並べ、約5,000冊の図書を配架していた。利用者が自由に手に取って閲覧できる資料は蔵書の約7%でしかなかった。

なぜ、7%なのか。開架閲覧室には、多くの資料を配架できない構造上の理由があった。1階の閉架書庫は図書館としての建物強度が考慮されたが、2階部分の開架閲覧室と一般閲覧室は通常の建物強度で建築されたため、図書の重さに床の強度が耐えられなかったのである。

閉架書庫は、1・2階部分を3層式にした構造になっていた。1層部分（1階）には、当時最新式の電動式集密書架が設置されていた。2階部分に当たる閉架書庫の2層目は和書（約46,000冊）、3層目には洋書（約17,000冊）を収蔵していた。

1階の電動式集密書架には、製本雑誌（約7,000冊）と約450種（和雑誌310、洋雑誌140）のカレント雑誌（継続購読雑誌）を収蔵していた。その他に、カセットテープやマイクロフィルム、マイクロフィッシュ、さらには16mmフィルムや8mmフィルムなども収蔵していたが、専用の所蔵場所が造られなかったため、1階事務室内にあった会議室内に専用架を設置し、収蔵していた。

当時の豊田校舎全体はどうだったのか。豊田校舎の鳥瞰図と航空写真を見比べながら、少し説明しておこう。豊田校舎は、体育学部のみが設置されていた関係で、広い敷地（現在のほぼ6割程度の広さ）に建物が点在していた。

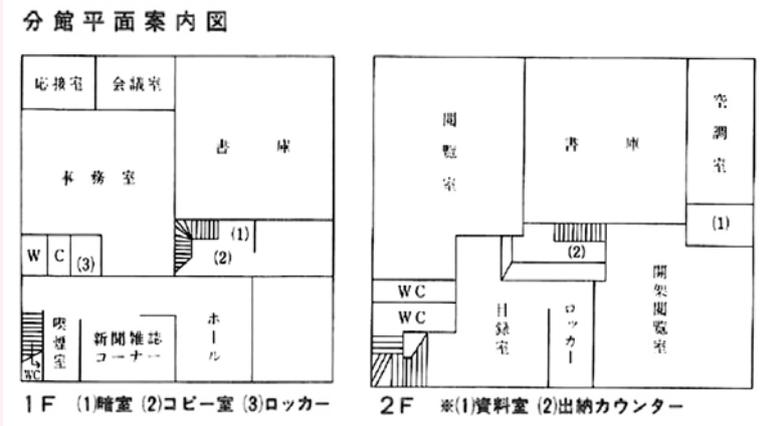
CULIB HISTORY



航空写真を見ると、写真手前にはトラックのあるグラウンドが写っている。その右横の大きな建物が、第1体育館（大体育館、鳥瞰図の⑥）である。

その隣には第2体育館（小体育館、鳥瞰図の⑤）、そして写真中央には本館（鳥瞰図の①）が見える。本館の左側には食堂棟（学生食堂、鳥瞰図の②）、その左手前には武道館（鳥瞰図の⑦）があった。また、グラウンドトラックの左下には男子学生寮（青雲館、鳥瞰図の⑩）があった。航空写真中央の本部棟の上に見える2つの建物は、教室棟である。

その上にあるグラウンドは野球場で、横には「常盤荘」と呼ばれる学生寮があった。航空写真では見えないが、常盤荘のすぐ裏には室内温水プールもあった。第1体育館の裏にある建物はクラブハウスや球技倉庫などだった。航空写真の中央にある本館の見えている側の1・2階に豊田分館があった。（鳥瞰図の①）



当時の豊田校舎のイメージを思い浮かべながら読んでいただきたい。上の図は、豊田分館の簡単な案内図である。1階には事務室、書庫、会議室、応接室の他、分館出入口から続くホール、自由に利用できた新聞雑誌コーナー、さらに今の時代では考えられないが、喫煙室もあった。2階には目録室、

## CULIB HISTORY

ロッカー室、一般閲覧室、開架閲覧室、そして閲覧カウンターがあり、その奥には書庫があった。当時、体育学部のみであった豊田校舎は、この状況においては十分な施設であり、多くの学生がこの環境の中で、学習にスポーツに励んでいた。

豊田分館は、体育学部の学生にとっては格好の休憩場所でもあった。もちろん図書館を利用する学生の多くは勉強をしていたが、夏はクーラー、冬は暖房が入っており、アスリートたちが辛い練習で疲れた体をいやす場所としても最高だった。

### 第2節 豊田分館移設新築計画

昭和61（1986）年、豊田校舎に社会学部が増設された。豊田分館の蔵書冊数はこの時、約10万冊に達しており、本館1・2階書庫では既に収蔵能力を超えていた。

社会学部増設にあたり、当時の文部省（現文部科学省）への学部設置認可申請手続きには、図書館の蔵書数も一定の冊数が必要とされた。このため、豊田分館では、社会学部設置に向け、その2年ほど前から、社会学部関連の資料と一般教養資料の充実を図った。特に社会科学関係資料の収蔵冊数は、昭和55（1980）年時点の約15,000冊から、社会学部が設置された昭和61（1986）年には約35,000冊と、約20,000冊増加していた。加えて一般教養図書などの購入も進み、この6年間で約30,000冊増加していた。

収蔵能力を超えた豊田分館をどうするか。応急措置として、書庫内に簡易シェルフを設置し、増加した図書を配架して凌いでいたが、限界だった。

水面下では、社会学部発足に歩調を合わせて、豊田分館を増築する計画が立案されていた。本館の1・2階部分を改装し、図書館書庫を北側のり面に増築するという案である。

あらまは、①40万冊収蔵の書庫を増築、既存書庫と合わせて50万冊可能とする②開架閲覧室とレファレンス室を拡大して5万冊以上の規模とする③閲覧座席数を400席以上にする④AV室を設ける（20席以上のブースを備える）⑤ブラウジングルームを拡大する⑥カフェテリアを併設して、閉館後も学生が集まるようにする——などであった。

これと並行して、事務局及び体育学部棟の新築も計画されていたが、総合的に考えると、豊田分館の増改築には多大な費用がかかるうえ、あまり便利なものにならないということもあり、図書館を移転した後に改築して事務局を置くという方法がよいという案が有力となった。これは、当時の梅村清明学長の英断で、現在位置に独立棟として豊田分館を新築することとなった。

昭和61（1986）年10月7日には、豊田分館新築計画の基本設計要領ができた。

### 第3節 豊田図書館の誕生

基本設計要領の作成にあたっては、豊田分館の職員の意見が大きく考慮された。これは、当時の分館課長やこの新築に関わった図書館職員に、「従来の豊田分館のイメージを大きく払拭して、できるだけ利用しやすい図書館を利用者目線で作ろう」という意気込みがあったからである。こうした経緯の下に新築された豊田図書館は、誕生から30年を経とうとしている現在でも見劣りしない。

第一に、何と言っても図書館独立棟であること。建物前の広いスペース、風除室のある入口を入れ

ば、くつろぎのエントランスホールに新聞雑誌を読めるブラウジングスペースがある。そこから図書館入口を入ると、左手にカウンター。その反対側には広々とした1階開架スペース（当時はこのスペースに目録カードボックスが置いてあった）が見渡せる。

カウンター前には2階への広い螺旋階段。それを上がるとガラス窓で囲まれ、図書館の外の風景も見渡すことのできる2階閲覧室が広がる。さらに閲覧室の奥には静粛学習室と一般閲覧室。表側にはグループで学習のできるグループ学習室が2部屋、さらに、ガラスとドアで仕切られた2階ラウンジがある。ここは、1階エントランスホールと吹き抜けで空間を共有する素晴らしい空間となっている。カウンターの奥は、事務室スペースとなっていて、事務室、厨房、トイレ、応接室（館長室）、会議室、資料室、司書講師研究室が備わっている。カウンターの後ろには書庫に繋がる階段がある。事務室からは、エレベーターで書庫に降りるのだが、ここにも当時の基本設計要領通り、職員の要望に応えた配慮が見てとれる。図書整理を終えて書庫に配架に行く場合には、事務室から直接エレベーターに乗って各書庫に行くことができるようにエレベーターの位置を決定した。このことは業務効率のアップと疲労軽減に役立っている。



▲完成した豊田図書館

#### 第4節 舞台裏

延べ床面積3,300㎡（1,000坪）。総工費7億6千万円で設計図の作成など複数業者に依頼、競合の結果、三井建設が施工することに。昭和62（1987）年4月14日、球技体育館とともに地鎮祭が行われた。豊田図書館が誕生するまでには、設計図は11回描きかえられ、何度も会議を重ねた。管理運営上の問題や利用者の便宜上の問題点、技術上の問題や安全面での問題、美観の問題など、合意点を見出すための多くの困難があった。豊田分館職員からも「21世紀を先取りした斬新さがほしい」「ニューメディアへの配慮をしてほしい」「座席に余裕がほしい」などの要望が出された。その要望が90%近く認められた形で建築は順調に進み、昭和63（1988）年4月に開館した。

豊田分館職員は、工事が終盤に差しかかると連日、新築図書館の中を訪れ、綺麗になっていく図書館に胸躍らせていた。オープン2か月前には、ほぼ書庫内が完成し、いよいよ資料の移動作業が始まった。「自分たちで、10万冊の資料を移動するんだ」と意気込んだ。

分館の書庫にある資料を、段ボールに詰める作業を開始。図書の分類順に段ボールに詰め、その順番が間違わないように段ボールに番号を振った。約10万冊、段ボールには大体30冊から40冊入る。40冊と見積もっても、2,500箱近くの段ボールになる計算だ。職員6名がこの作業にあたり、1か月

## CULIB HISTORY

で終わった。この時の書庫の状況は、「段ボールでいっぱい」「足の踏みどころもない」状態だった。2,500箱の段ボールを新館へ運ぶ作業は、1.5トントラックを活用した。分館から新館までの距離は学内通路を使って約500m、トラック1回で運ぶことのできる段ボールの数は、だいたい40箱だった。つまり、すべての段ボールを運ぶには、およそ60回以上の往復が必要で、1往復（積んで降ろす作業を含め）に要する時間は約2時間がかかる。延べ120時間、3週間で終了すると見込んでいた。だが、職員の疲労は想定を上回り、すべての資料を分館から新館へ移動させるのに約1ヶ月かかった。



▲1階 ブラウジング



▲1階から2階への階段

運搬作業の後は、新館での配架が待っていた。一人ひとり担当部分を決め、段ボールから出しては配架を繰り返した。腕が上がりなくなり、体は痛くなり、1冊の本がとても重く感じるようになった。が、皆の努力で3月末には、概ね資料が段ボールから出され、書庫や開架室は空になった段ボールが山のように積み上げられていた。この間の作業は、豊田分館職員だけではなく、名古屋校舎の図書館本館からも職員が日替わりで応援に駆け付けた。短い間に10万冊にもおよぶ資料の移動ができたのは、その協力があつたからこそである。

この蔵書移動の間に、豊田分館の新館のネーミングをどうするかで、論議がなされた。「従来の名称である『中京大学附属図書館豊田分館』を『中京大学豊田図書館』にしたい」。それが、豊田分館側の主張だった。これには、名古屋の本館からクレームが付いたが、新豊田図書館は独立棟である、図書館業務機能も本館と同一にする。分館のイメージではない——などの理由で、「中京大学豊田図書館」に決定した。完成した新図書館の玄関には、「中京大学豊田図書館」のネームプレートが掲げられた。ちなみに、それまでの名古屋校舎の図書館の正式名称は「中京大学附属図書館本館」、豊田分館は「中京大学附属図書館豊田分館」だった。しかし、豊田校舎での新館の名称が「中京大学豊田図書館」と決まったことを機に、当時の図書委員会で改めて本館のネーミングも検討され、「中京大学名古屋図書館」と改められた。名古屋校舎図書館の玄関入口にあった「附属」のはいったネームプレートはその後、撤去され、新しい「中京大学図書館」のネームプレートが掲げられたのである。（次回に続く）

（名古屋図書館参事 加藤 恭輔）

ACTIVE  
LEARNIG

## アクティブ・ラーニング企画 「レポート作成や就活に役立つ！」

### 新聞記事のデータベース検索を紹介

名古屋図書館と豊田図書館では、学生たちの能動的学修を支援するために、様々な「アクティブ・ラーニング企画」を展開している。6月には、朝日新聞社の「聞蔵Ⅱ（きくぞう・ツー）ビジュアル」や、読売新聞社の「ヨミダス歴史館」、EL-NET（新聞・雑誌の横断検索）、中日新聞・東京新聞記事検索サービス など、インターネットで新聞記事などのデータベースを検索するシステムの講習会を開いた。

新聞社の記事データベースは、トップ画面の検索画面に、読みたいと思う記事のキーワード（例えば、再生可能エネルギー、日本人ノーベル賞）や発行期間などを打ち込むと、キーワードに関連した記事の

一覧画面が表示される。キーワードがいつ頃から使われているかを知りたい場合は、「順序」を古い順に切り替えて検索する。検索した結果、ヒットした件数が多すぎて、記事を探すのが大変な時は、検索条件を追加し、さらに記事を絞ると、記事を見つけやすくなる。再生可能エネルギーで、愛知県の行政や企業に関連した記事を見つけたい時は、「再生可能エネルギー」「愛知県」とキーワードを重ねて、絞り込めばよい。受講者たちは「今後、レポートを書く時などに、新聞記事のデータベースを大いに活用していきたい」と話していた。



新聞記事などのデータベースを検索する方法を学ぶ受講者たち



ラーニング・アドバイザーによるレポートの書き方講習会

### 多彩な学生支援サービス

アクティブ・ラーニング企画ではこのほか、ラーニング・アドバイザーによるレポートの書き方講座、企業の入社試験で利用される SPI 総合検査の問題を速く解くコツを教える「SPI 講座」も開かれた。また、データベース「Academic One File」によ

る文献検索の基本的な方法、文献の管理・引用に役立つツールを学ぶ講習会や、辞書や辞典を中心に構成された知識データベース「JapanKnowledge Lib」の講習会も開かれた。



『世界はなぜ過激化するのか?』  
—歴史・現在・未来—

ファラッド・コスロカヴァール

藤原書店

2001年のアメリカ同時多発テロ事件以降、世界の多くの場所でテロが続発し、一向に収束する気配を見せない。フランスにおける2015年のシャルリ・エブド襲撃およびパリ同時多発テロなど、世界を襲うテロの脅威がなぜ豊かな社会で発生するのか、この問いに答えを出そうとしているのが本書である。

格差拡大、教育不均等、政治不信などの政治・経済的問題、個人が抱える孤立、不安、絶望、欲求不満などといったさまざまな視角からテロの淵源を捉え、この状況からの脱却の可能性を探っている。

わが国においても少子化に伴って人口減少が始まり、近い将来、移民のあり方を議論する時代が来るに違いない。本書における議論は決して他人事ではなく、自らのこととして捉える必要がありそうである。

総合政策学部 准教授 市島 宗典



『18歳の著作権入門』

福井 健策

筑摩書房

ソーシャル・ネットワーク・サービスのアイコンにアニメ等のキャラクターを無許諾で使用したり、会議資料として雑誌記事を無許諾でコピーしたりしたことがある人は少なくないであろう。実は、これらは形式的には著作権侵害に当たり得る行為である。普段意識することは少ないが、我々の日常生活と著作権法は密接に関係している。本書は、著作権法の分野で著名な弁護士が、興味深い実例をふんだんに盛り込みながら、著作権法の基礎をわかりやすく解説するものである。著作権法のルールは時に窮屈に感じることがあるかもしれないが、本書をひとくけば、上手に付き合うことができるようになるであろう。身近な法律である著作権法に少しでも興味を持った方は、是非とも本書を手にとってみることをお勧めしたい。

法学部 准教授 小嶋 崇弘

書籍紹介

先生編



『人事屋が書いた経理の本』

協和醗酵工業

ソーテック社

本書は、タイトルからもわかる通り、会計学の専門家が書いた本ではない。人事屋という、あくまでも会計学の専門家ではない人が、会計学を苦手としている人のために、わかりやすく会計学を解説した本である。事例を多く取り入れ、専門用語についても可能な限りかみ砕いているため、会計学を学ぶ際の最初の専門書としては最適ではないだろうか。実際、本書は初版(昭和53年)発効から40年近く経った現在も売れ続けており、会計学の専門家の間でも有名な本である。

「会計」や「経理」といった言葉を聞いただけで、抵抗感を抱く学生は少なくないだろう。おそらく、「数字は苦手」という理由から、会計学の学習に二の足を踏んでいる学生は多いと思われる。だが、そのような学生にこそ、学習の助けになる著書の一つとして、本書を強く推薦したい。

経営学部 講師 齊藤 毅



『われらの子ども』  
—米国における機会格差の拡大—

ロバート・D・パットナム

創元社

かつて米国の子どもには、その出自によらずアメリカン・ドリームを実現するための「機会の平等」があった。しかし、今日では親が大卒以上か高卒以下かで、その子どもたちは自らの努力で上昇移動できる機会が確実に減ってきている。その結果、所得格差が拡大し、居住地域や教育や結婚などによる階級分離が進展した。本書は、第1章から第5章まで、それぞれの社会階級に属する若者とその親へのインタビューをもとに、一人称で語られる「二つの物語」を対比している。「機会の格差」の事例は全米各地に一般化できることを各種のデータに基づいて実証する。パットナムは、格差が世代を越えて継承されることを防ぐためには、自分の子ども以外の「われらの子ども」に投資を行うことなど、社会全体で子どもを支えることが重要であると主張する。ソーシャル・キャピタル研究の第一人者によるもう一つの格差論とその処方箋。

現代社会学部 教授 成元 哲



『なぜ、この人と話をすると楽になるのか』

吉田 尚記

太田出版

著者はニッポン放送の人気アナウンサー。ラジオ局のアナウンサーと言えば、コミュニケーションの「プロ」というイメージが強いかもしれない。だが意外にも、著者はコミュニケーションが苦手な「コミュ障」だったのだという。試行錯誤を繰り返す中で、コミュニケーションは「ゲーム」であるとともにたくさんの「型」があると考えるようになり、その型を駆使することで、コミュニケーションはぐっと楽しくなると感じたそうである。

本書はもともと、動画サイトの生放送を通じて著者が視聴者に語りかけた文章を一冊に編みなおしているもので、臨場感があり、非常に読みやすい。コミュニケーションに苦手意識を持っている人、コミュニケーションについての本を探している方に読んでほしい。よく知らない人と何気ない雑談をする時間が、楽しみな時間になるかもしれない。

経営学部 2年 浅井 翔



『就職迷子の若者たち』

小島 貴子

集英社新書

明るい兆しが見えているとはいえ、まだまだ厳しい就職戦線。私達にとって、今や就職試験は人生初めての重大決断、高いハードルとなっている。長い就職期間、重い精神的ストレス、自分探しの不安。働きたいのに、働けない。自分に合う仕事はどう見つけるのか。

若者は仕事探しの道筋で迷っている「就職迷子」なのである。著者は、若者と社会や企業との橋渡し役として活躍するカリスマ・キャリア・カウンセラー。就職試験までまだ時間があると先のことまで考えていない1、2年生、就職試験が始まり焦るがどうすれば良いかわからなくなる3年生、そして就職活動を行っているが、うまくいかない4年生、それぞれの立場に対し、現場をふまえて「大丈夫、こうすればうまくいく」と具体的にアドバイスをしてくれる。

就職試験で必ず味方になる一冊であろう。手に入れない理由が見当たらない。

総合政策学部 2年 阿達 昂史

書籍紹介 学生編



『学校が教えないほんとうの政治の話』

斎藤 美奈子

ちくまプリマー新書

平成27年、公職選挙法の改正により選挙権が18歳に引き下げられたことで、選挙に行った学生も多いのではないだろうか。しかし、明確な根拠を持って投票した人は決して多くない。その理由は、本当の政治を知らない（教えてもらっていない）からではないだろうか。この本は、そうした学生の疑問に的確に答えてくれる。

内容としては、政治史に始まり、貧富の差や右翼左翼など。なんとなく難しそうな印象を受けるが、政治に疎い若者に向けて、語りかけるように書かれているため、躓くことなくページを繰ることができる。本を読み終える頃には、頭の中で一つの立ち位置が形成されるはずである。

知らず知らずのうちに政党ごとの特徴や性格に気がついて、あなたなりに「ひいきのチーム」が生まれることだろう。次の選挙までに、一読することをお勧めしたい。

法学部 2年 日比 真里香



『子どもの貧困Ⅱ：解決策を考える』

阿部 彩

岩波新書

「子どもの貧困」を生み出す要因は何か。また、それを解決するためには何をすればよいのか。本書は、子どもの貧困をその解決策から考える一冊である。まず、子どもの貧困の現状を確認し、なぜ貧困の連鎖が起こるのか、そのさまざまな経路を提示する。そのうえで、解決策を探る本書の中心的な部分においては、政策をどう選択し、対象者を選定するか、現金給付の大切さと確かな効果について述べる。現物給付については、その選定や効果検証が現金給付よりさらに難しいことに触れつつ、筆者が有望だとするいくつかの政策、すなわち、放課後プログラム、学習支援などについて述べる。貧困の連鎖を断ち切るためには、教育のルートにしっかりと乗り、就労まで引き継いでいくことが重要であると指摘。本書は、国内外の貴重なエビデンスがまとめられ、子どもの貧困をその解決策から考える上で欠かせない情報が満載である。ぜひ多くの人に読んでほしい一冊である。

現代社会学部 3年 最上 絃衣

EVENT  
REPORT

## 豊田図書館で初のリアル謎解きゲーム 「怪盗トランプからの挑戦状!」を開催

豊田図書館では、4月6日から5月19日の間で、新規となるイベント“リアル謎解きゲーム「怪盗トランプからの挑戦状!」”を実施した。

参加者は、カウンターでストーリー仕立ての「謎解き冊子（導入編）」を受取り、貸出用ノートパソコンで犯行予告を確認する。これに従い、書庫でキーワードをたどり「謎解き冊子（推理編）」を入手してから、クイズ形式の謎解きに挑戦して解答を提出する流れとなる（詳細手順は下記参照）。

### 【ゲームの詳細】

- ①「謎解き冊子（導入編）」をまずカウンターで受け取る。
- ②冊子の指示に従ってノート PC を貸出す。→アイコンをクリックすると、怪盗トランプの犯行予告が現れる。
- ③予告に従い書庫へ移動する。
- ④書庫の足跡をたどっていくと、トランプの犯行現場に遭遇→事件が勃発（何かが盗まれる!）。
- ⑤書庫の4カ所でキーワードを集める。
- ⑥指示に従ってキーワードを集めたら、冊子に書き留めて、書庫を出る。  
ー次の展開へー
- ⑦書庫を出たら、次の冊子（推理編）をカウンターで受け取る。
- ⑧冊子には8名の犯行現場に居合わせた容疑者が紹介されている。
- ⑨まずは冊子の指示に従い、書庫で集めた4つのキーワードから一冊の本を割り出す（OPAC 使用）。
- ⑩そこから順に冊子や掲示の指示に従って6つの謎を解く。
- ⑪冊子に答えをクロスワードのようにはめ込んでいくと、何が盗まれたかわかる。同様に星マークの付いた文字を組み合わせると、8名の容疑者のうち誰が犯人かヒントが浮かび上がる。  
導き出される犯人名と学籍番号・氏名を冊子に記入後、カウンターに提出して終了。

今回は約70名が参加し、正解者は20名程度であった（参加者にはクリアファイル、正解者には『アンキスナップ』を贈呈）。

図書館においてゲーム感覚のイベントを実施するのは初めての試みであり、当初は学生の参加状況も含めた反応がやや不安視されていた。しかし、ラーニング・スクエアイベント等での告知を強化することにより予想以上の反応があり、カウンターでの問合せも増大し、多くの参加者へと繋がっていった。

### 【ストーリー設定】

参加者は中京大学豊田キャンパスに通う大学生のかたわら、木南探偵事務所にアルバイト兼助手として働いているという設定。

そんな折、図書館でアルバイトをしている友人から、図書館に奇妙な出来事がおこっていることを教えられる。

「返却用ポストに謎の手紙が投函されている。もう三回目だ。」

怪盗トランプからの犯行予告。ただのいたずらか？

参加者は探偵と図書館に調査に赴き、トランプの謎を解き明かして、盗まれた物とトランプが変装した犯人を捜す。



▲参加した学生が貸出用ノートパソコンで「犯行予告」を確認

今後は、このようなイベントに改善を加えながら定期的の実施していきたい。これにより、普段は書庫利用や OPAC 検索をしない学生達に、少しでも興味を喚起してもらうことで、図書館の有効利用を促進していきたい。



▲イベント用に設定された犯行現場や謎解き部屋 等

# 2017年度 図書館カレンダー

図書館の一年間の開館予定がご覧になれます。

各館ごとの臨時休館、開館時間の変更等は、図書館ホームページの【ニュース】でご案内いたします。

## ◎通常の開館時間

	名古屋図書館 (NL)	ライブラリーサービスセンター (LSC)	法学文献センター (LLC)	豊田図書館 (TL)
平日	9:00～22:00 <small>(中京大学の教職員証・学生証をお持ちでない方は下記時間内に入館して下さい 平日9:00～19:00、土曜日9:00～15:00)</small>	9:00～20:00	9:00～19:00	9:00～20:30
土曜日		9:00～12:30	9:00～12:30	9:00～17:30

## ◎日付の色について

無印は通常開館日（開講期）

○は休講期（全館 平日9:00～17:00、土曜日9:00～12:30）

■は休館日

●はLSC（定期試験月の休日開館日 10:00～17:00（中京学生・教員のみ対象））

■は学内行事時間帯開館日（見学対応あり）（9:00～16:00）

○はラーニング・スクエア イベント開催期間

名古屋図書館 (NL)							ライブラリーサービスセンター (LSC)							法学文献センター (LLC)							豊田図書館 (TL)						
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14	8	9	10	11	12	13	14	8	9	10	11	12	13	14	8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21	15	16	17	18	19	20	21	15	16	17	18	19	20	21	15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28	22	23	24	25	26	27	28	22	23	24	25	26	27	28	22	23	24	25	26	27	28
29	30	31					29	30	31					29	30	31					29	30	31				
			①	②	③	4				1	2	③	4				1	2	③	4				①	②	③	4
5	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	11	5	6	7	8	9	10	11	5	6	7	8	9	10	11	5	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	11
12	⑬	⑭	⑮	⑯	⑰	⑱	12	13	14	15	16	17	⑱	12	13	14	15	16	17	⑱	12	⑬	⑭	⑮	⑯	⑰	⑱
19	⑳	㉑	㉒	㉓	㉔	㉕	19	20	21	22	㉓	㉔	㉕	19	20	21	22	㉓	㉔	㉕	19	⑳	㉑	㉒	㉓	㉔	㉕
26	㉖	㉗	㉘	㉙	㉚		26	27	28	29	30			26	27	28	29	30			26	㉖	㉗	㉘	㉙	㉚	
				①	2						1	2						1	2						①	2	
3	④	⑤	⑥	⑦	⑧	9	3	4	5	6	7	8	9	3	4	5	6	7	8	9	3	④	⑤	⑥	⑦	⑧	9
10	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮	⑯	10	11	12	13	14	15	16	10	11	12	13	14	15	16	10	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮	⑯
17	⑰	⑱	⑲	㉑	㉒	㉓	17	18	19	20	21	22	㉓	17	18	19	20	21	22	㉓	17	⑰	⑱	㉑	㉒	㉓	㉔
24	㉔	㉕	㉖	㉗	㉘	㉙	24	25	㉖	㉗	㉘	㉙	㉚	24	25	㉖	㉗	㉘	㉙	㉚	24	㉔	㉕	㉖	㉗	㉘	㉙
31							31							31							31						
	1	2	3	4	5	6		1	2	3	4	5	6		1	2	3	4	5	6		1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13	⑦	8	9	10	11	12	13	7	8	9	10	11	12	13	7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20	⑭	15	16	17	18	19	20	14	15	16	17	18	19	20	14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27	⑳	22	23	24	25	26	27	21	22	23	24	25	26	27	21	22	23	24	25	26	27
28	29	⑳	㉑				㉓	29	㉑	㉒				28	29	㉑	㉒				28	29	㉑	㉒			
				1	②	③					1	②	③					1	②	③					①	②	③
4	5	6	⑦	8	⑨	⑩	4	5	6	⑦	8	⑨	⑩	4	5	6	⑦	8	⑨	⑩	4	5	6	7	8	9	10
11	12	⑬	⑭	⑮	⑯	⑰	11	12	⑬	⑭	⑮	⑯	⑰	11	12	⑬	⑭	⑮	⑯	⑰	11	12	⑬	⑭	⑮	⑯	⑰
18	⑱	⑲	㉑	㉒	㉓	㉔	18	⑱	⑲	㉑	㉒	㉓	㉔	18	⑱	⑲	㉑	㉒	㉓	㉔	18	⑱	⑲	㉑	㉒	㉓	㉔
25	㉕	㉖	㉗	㉘			25	㉕	㉖	㉗	㉘			25	㉕	㉖	㉗	㉘			25	㉕	㉖	㉗	㉘		
			①	②	③					①	②	③					①	②	③				①	②	③		
4	5	6	7	8	9	10	4	5	6	7	8	9	10	4	5	6	7	8	9	10	4	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩
11	⑫	⑬	⑭	⑮	⑯	⑰	11	⑫	⑬	⑭	⑮	⑯	⑰	11	⑫	⑬	⑭	⑮	⑯	⑰	11	⑫	⑬	⑭	⑮	⑯	⑰
18	⑱	⑲	㉑	㉒	㉓	㉔	18	⑱	⑲	㉑	㉒	㉓	㉔	18	⑱	⑲	㉑	㉒	㉓	㉔	18	⑱	⑲	㉑	㉒	㉓	㉔
25	㉕	㉖	㉗	㉘	㉙	㉚	25	㉕	㉖	㉗	㉘	㉙	㉚	25	㉕	㉖	㉗	㉘	㉙	㉚	25	㉕	㉖	㉗	㉘	㉙	㉚

発行 中京大学図書館

〒466-8666 名古屋市昭和区八事本町101-2 TEL(052)835-7157 [http://www.chukyo-u.ac.jp/research\\_2/library/](http://www.chukyo-u.ac.jp/research_2/library/) 印刷 株式会社一誠社